

【 8 月の気象 】

例年、8 月は太平洋高気圧に広く覆われて晴天の暑い日が続き、1 年のうちで一番気温が上がる月となります。松山の真夏日（最高気温が 30 度以上の日）の日数は、2025 年、2024 年共に 29 日ありました。2025 年の夏（6～8 月）は、松山だけでなく日本の平均気温は統計開始以降で最も高くなりました。

一方で、8 月の降水量は年による違いが大きく、平年の 1～2 割程度の年もあれば、太平洋高気圧が一時的に弱まるなどして梅雨末期の様に前線が西日本に停滞し大雨となる年もあります（表 1）。昨年 8 月前半には、九州北部で線状降水帯が複数発生するなど記録的な大雨となりました。2021 年 8 月も九州北部や中国地方で線状降水帯が発生し、愛媛県内でも 72 時間降水量が 8 月の過去最高となる地点があるなど、松山の月降水量は平年の約 3.7 倍となりました。

表 1 最近 10 年の 8 月の月降水量と平年比

年	松山		今治		宇和島	
	99.0	平年比 (%)	93.8	平年比 (%)	177.1	平年比 (%)
2016	22.5	23	14.0	15	46.5	26
2017	56.0	57	72.5	77	163.5	92
2018	15.5	16	11.0	12	119.0	67
2019	199.5	202	117.0	125	363.5	205
2020	10.5	11	1.0	1	37.5	21
2021	369.0	373	311.0	332	402.5	227
2022	50.0	51	33.5	36	26.0	15
2023	76.5	77	123.5	132	247.5	140
2024	184.0	186	153.0	163	386.0	218
2025	154.0	156	66.0	70	135.5	77

※表中の数値は、降水量（mm）、平年比（％）

【 気象用語 】 台風経路図について

台風（発達する熱帯低気圧を含む）の存在位置と進路予想を、気象庁ホームページで確認することができます（図 1）。現在の台風の中心位置を×印で示し、青い線は台風の中心が通ってきた経路です。赤円の太実線の円内は暴風域（平均風速 25m/s 以上の暴風が吹く可能性のある範囲）、黄色の実線の円内は強風域（平均風速 15m/s 以上の強風が吹く可能性のある範囲）です。台風は、上から見て反時計回りに強い風が吹き込んでおり、進行方向に向かって右側は、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため、風が強くなる傾向があります。

予報の内容は、各予報時刻の台風の中心位置、進行方向と速度、中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、予報円の半径、暴風警戒域です。

暴風域に入る確率を、分布図で確認することができます（図 2）。確率の高さを色で表現しています。

また、地図上の地域（陸域）をクリックすると、暴風域に入る確率を 3 時間ごとの時系列グラフで確認できます（図 3）。確率が低くても、その後の台風進路予報で変わる可能性がありますので、最新の台風経路図をご利用ください。

台風が四国（愛媛県）に影響を及ぼすおそれがあるときには、「愛媛県気象解説情報（台風第〇号）」を発表します。

台風は海水温の高い熱帯の海域で発生し、通常は東風が吹いている低緯度では西よりに移動し、夏は太平洋高気圧が日本付近へ張り出してくるため、この縁を回るように北上することが多くなります。8 月は台風を動かす上空の偏西風が日本より北を流れていることもあり、台風はゆっくり移動することが多く、進路が定まらないこともあります。秋になると上空の偏西風が日本付近へ南下してくるため、日本に接近した台風は向きを次第に北東に変え、速度を上げて日本付近を通り抜けていくことが多くなります。

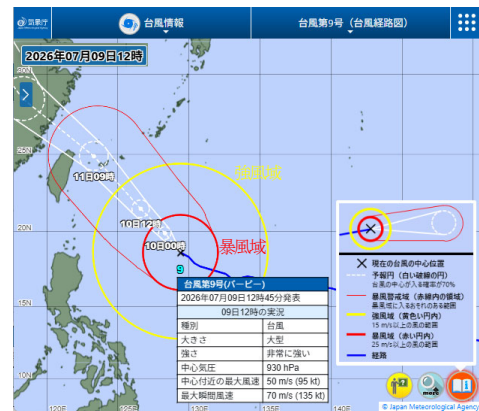


図 1 台風経路図（第 9 号の例）

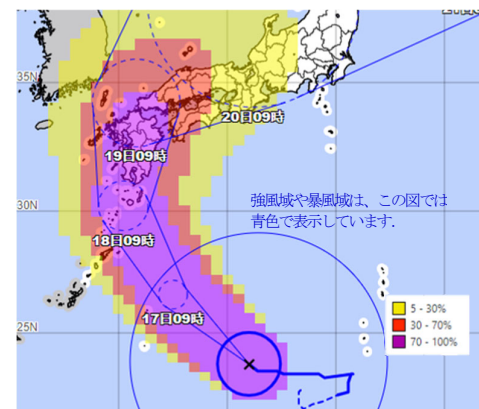


図 2 暴風域に入る確率（5 日先まで）

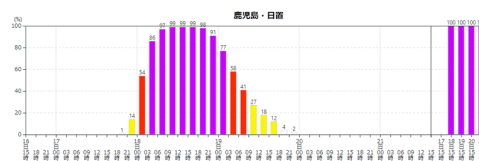


図 3 暴風域に入る確率の例（時系列グラフ）